

【愛知県岡崎市・豊橋市】

中核市における情報システムの共同化

背景・取組内容

- ・ 度重なる法改正対応の改修によってシステムが複雑化。
- ・ 職員による自前での開発・運用が困難。
- ・ 運用・保守の委託費用の高騰。
- ・ 災害時において業務継続性を確保する必要。
- ・ リーマンショックによる財政のひっ迫。
- ・ 岡崎市・豊橋市の両市で共同化（平成 24 年度より順次導入）。人口 30 万人以上の中核市での共同利用は全国初。
- ・ 岡崎市ではボトムアップ、豊橋市ではトップダウンによる実施。
- ・ 国保、国民年金、税総合システムのライフサイクル全体（企画、運用、保守等）を対象。
- ・ システム刷新に必要な各種検討を両市共同で行い、業務改善や経費節減を図るための手段・方法を整理。



実現までの問題と解決策

【問題】

- ① 目的の共有化。実務面、その他の問題（共同化方式、業者選定、契約等）。
- ② システム稼働のスケジュールの統一。
- ③ 実現に向けた推進体制の構築。
- ④ 共同化の相手との距離等（地理、コミュニケーション）。

【解決策】

- ① 課題解決の実効性について事前の効果測定（費用対効果等）を実施。
- ② 実績のあるパッケージシステムを選定し、カスタマイズを極小化、期間短縮。
- ③ 業務主管課に管理部門を設置し共同化の推進体制を構築。ベンダーにも共同化調整。
- ④ Web 会議システム、情報共有ツールの活用。

効果

- ・ 国民健康保険・国民年金システム ▲5 億 800 万円（▲46%）（5 年間）。
- ・ 税総合システム ▲10 億 9,700 万円（▲45%）（5 年間）。
- ・ 5 年間のコストでの導入による低廉化。5 年ごとの業者の見直しによる柔軟な運用。
- ・ 災害時の業務継続性の向上や、取組と併せて行った国民健康保険における高齢受給者証のカード化（岡崎市）、納入通知書のレイアウト・記載内容の変更等。
- ・ クラウドをきっかけとした業務改善（業務の共同化・統一化、他自治体を参考 等）。

今後の課題

- ・ 更に構成団体を広げていきたいが、現契約がベンダーと各市であるため契約内容・金額の検討・調整が必要となり、また、庁内で情報管理をするべきと考える市もある。